

わかやま医療ガイド



医療
TOPICS

県医大、小さい腎臓がんの ロボットによる部分切除術が保険適用



和歌山県立医科大学泌尿器科・原勲教授

和歌山県立医科大学泌尿器科・原勲教授は、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」による腎臓がんの部分切除術が保険適用となったと発表しました。

今年4月のロボット支援腎部分切除術の保険適用を踏まえて、県医大では平成26年から公費負担で11例を施行。施設基準をクリアし、今年5月1日から保険適用による手術を開始しました。

これまでに腎臓がんは症例が増えてはいますが、手術は「直径4センチ以下で外方突出型の腎腫瘍が、部分切除に適用しています。これまで、この手術は保険適用と比べて、手術に比べて、ダ・ヴィンチは高解像度の3D画像を見ながら人間の手の関節以上の自由度を持つロボット鉗子（かんし）を用いるため、精密な切開や縫合を素早く行うことができます」と原教授。患者さんにとっては傷が小さく術後の回復も早く、そして保険適用により治療費が軽減されたことで、ロボットによる腎部分切除術は、ますます重要な治療選択のひとつになってきています。県医大では腎臓の部分切除は年間20〜30例に増える予想されています。

進化する最先端医療 手術支援ロボット、ダ・ヴィンチ

状況が出るころには腫瘍が小さくなっていくケースが多く、標準治療は腎摘除術でした。近年ではCTやエコーの普及に伴い、小さい腎臓がんを発見する頻度が増加しています。それに伴い腎機能保護のため、部分切除術が行われるようになってきました。

しかし、腎臓は出血のコントロールが難しく、腎機能温存の観点から30分以内の阻血が必要で、腎摘除術に比べて部分切除は高い手技が



記者発表風景

立腺全摘除術に使用。年間100例のペースで行っています。この実績が、繊細な手術操作を可能にし、安全を確保しつつ手術の質の向上につながっています。今後さらなる適応の拡大に期待が寄せられています。